

Meet the Musicians 楽 団 員 紹 介

知的さとユーモアあふれる感性で支えるホルニスト

溝根 伸吾

Shingo Mizone

[ホルン奏者]2020年4月入団

趣味: 読書、ピラティス



第一印象は「アットホーム」

東京交響楽団では学生時代に何度かエキストラとして演奏させていただいたことがあり、楽団員同士の仲の良さを感じたことを覚えています。東響での“初”演奏が、誕生日を迎えた楽員をリハーサル前にみんなでお祝いする「ハッピーバースデー」だったことも影響しているかもしれません(笑)。

大野雄太さん(首席ホルン)は覚えていらっしゃるかわからないんですが、私がまだ学生だった頃に、実は大野さんと2人で飲みに行ったことがあるんです。上野の高架下のバルミtainなところで。その後、年月を経て同じオーケストラのメンバーになるなんて、ご縁を感じます。

「ぞねぞね」誕生のきっかけは仙台

ライブ配信やSNS上で「ぞねぞね」と呼んでいただいています。特に目立つことをしていたわけではないと思うのですが、なんだか様子が変わったのは、仙台フィル在籍中にこども向けコンサートで急遽「エビカニクス」を踊ったことかもしれません。出演予定だった方が出られなくなり、なぜか私に白羽の矢が立ちました。カニの全身タイツで踊っている様子がたまたまSNSで拡散され、気づけば今のポジションに……(笑)。ホルン奏者の宿命かもしれませんが、基本的に頼まれたら断れないタイプ。楽器をはじめたきっかけも、小学5年生の時に友人に誘われて入部したオーケストラクラブで、例のごとくトランペットに空きがなく、ホルン、トロンボーン、そ

してオケなのになぜかあったユーフォニアムの中からホルンを選んだという「よくあるホルンの始め方」をした一人です。東響でも、頼まれればいつでもやる準備はあります!

7年間を過ごした仙台は本当にいいところです。地下鉄での移動は簡単、中心地でなんでも揃い、街はコンパクトで少し郊外に出ると自然がある。世界で一番住みやすい街なのではと思っています(笑)。東京に拠点を戻した直後は、電車移動がとにかく大変に感じました。学生時代はこれが当たり前だったはずなんですけどね(笑)。

7月から正団員に

この7月で東京交響楽団の正団員になりました。研究員としての1年強で、自分の足りない部分ややりたいことが見え“今”に必死な毎日ですが、目の前1つ1つの演奏会に向き合う、濃密な日々を過ごしています。CDやサブスクリプションで、音楽は簡単に聴ける時代ですが、音の振動や雰囲気を感じることができるのはライブだけ。#ニコ響の良さもちろんありますが、是非一度、会場に来ていただきたいです。



各所に衝撃を与えた「エビカニクス」(2017年)。

©仙台フィルハーモニー管弦楽団

インタビュー:事務局